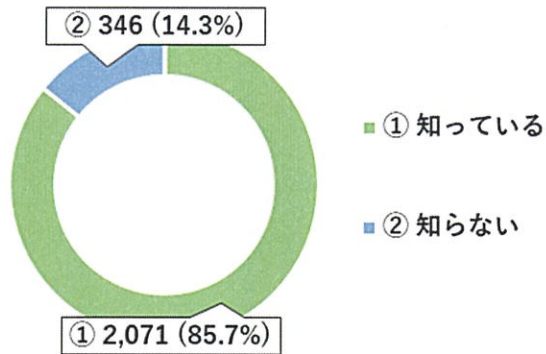


### 問3(3) 通報等による解雇・不利益な取扱い

\* 通報等による解雇・不利益な取扱いを受けないことについては、「① 知っている」が85.7%となっており、「② 知らない」は14.3%となっています。

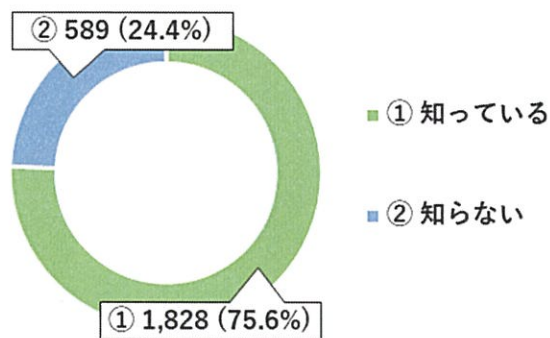
(n=2,417)



### 問3(4) 通報窓口

\* 通報窓口は、「① 知っている」が75.6%となっており、「② 知らない」は24.4%となっています。

(n=2,417)

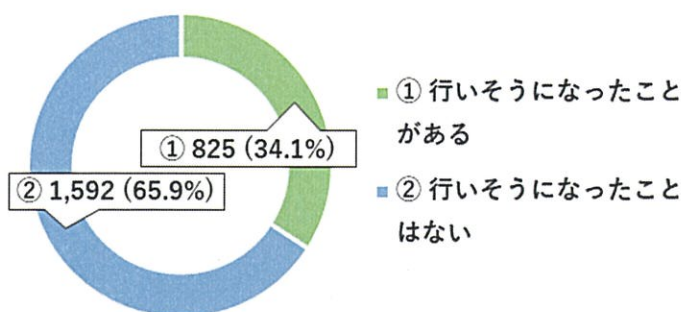


## A-4 障害者虐待の状況

### 問4(1) 虐待行為等を行いそうになったことの有無

\* 虐待行為等を行いそうになったことの有無は、「① 行いそうになったことがある」が34.1%となっており、「② 行いそうになったことはない」が65.9%となっています。

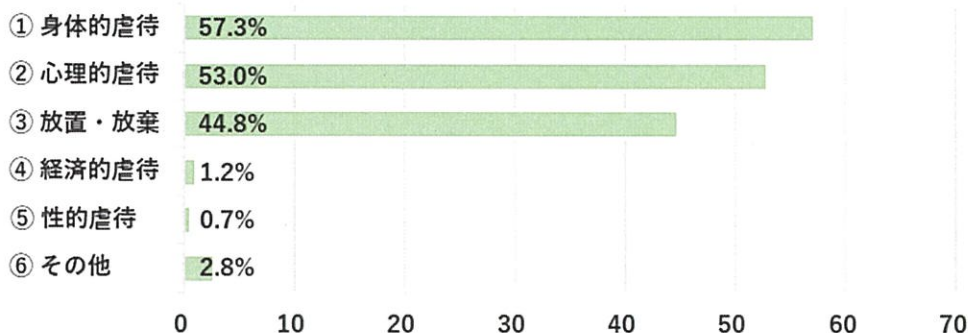
(n=2,417)



### 問4(2)ア 行いそうになった虐待行為等の内容【複数回答あり】

\* 行いそうになった虐待行為等の内容は、「① 身体的虐待」が57.3%で最も多く、次いで「② 心理的虐待」が53.0%、「③ 放置・放棄」が44.8%となっています。

(n=825)



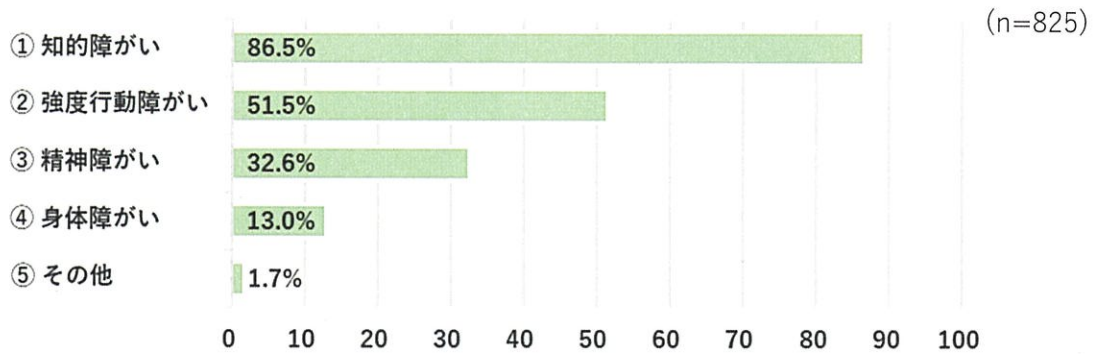
< 「その他」の主な内容 >

一時的な感情から一喝したくなる時があった。
下の名前やあだ名で呼びそうになった。
強めの声での声掛けや繰り返される質問や会話への返答を省略しそうになった。
言葉の使い方がこどもに対するように話しかけそうになった。
子ども扱いのような言葉使いをしそうになった。
支援が重複した際に待たせることがあった。
少し口調が厳しい対応をしそうになった。
他の利用者さんや従業員が暴力等にあった時制止する行為をした。
他業務遂行中に、話を聞いてあげることが出来なかった。
対応できないことに関してや利用者間トラブルなどの利用者さんからの暴力行為や暴言などに注意と制止を行った。

**問4(2)イ 行いそうになった虐待行為等の対象者の障がい種別【複数回答あり】**

\* 行いそうになった虐待行為等の対象者の障がい種別は、「① 知的障がい」が86.5%で最も多く、次いで「② 強度行動障がい※」が51.5%となっています。

※自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態

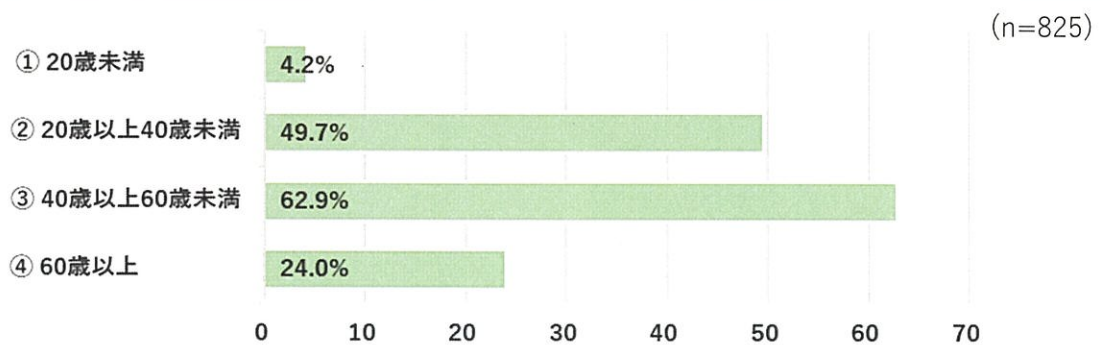


< 「その他」の主な内容 >

発達障がい
認知症
統合失調症

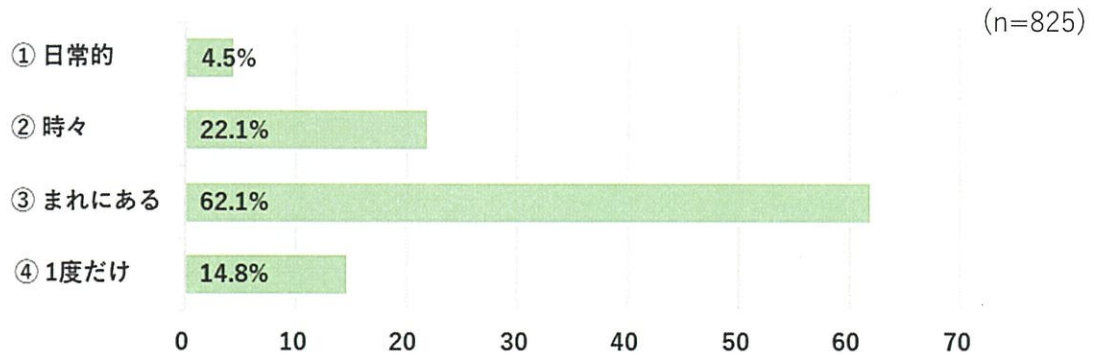
**問4(2)ウ 行いそうになった虐待行為等の対象者の年齢【複数回答あり】**

\* 行いそうになった虐待行為等の対象者の年齢は、「③ 40歳以上60歳未満」が62.9%で最も多く、次いで「② 20歳以上40歳未満」が49.7%となっています。



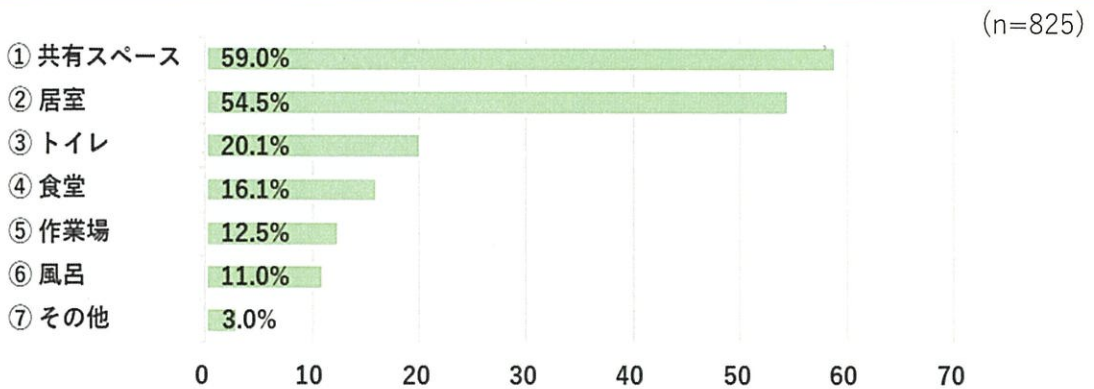
**問4(2)エ 虐待行為等を行いそうになった頻度【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになった頻度は、「③ まれにある」が62.1%で最も多く、次いで「② 時々」が22.1%、「④ 1度だけ」が14.8%となっています。



**問4(2)オ 虐待行為等を行いそうになった場所【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになった場所は、「① 共有スペース」が59.0%で最も多く、次いで「② 居室」が54.5%、「③ トイレ」が20.1%となっています。



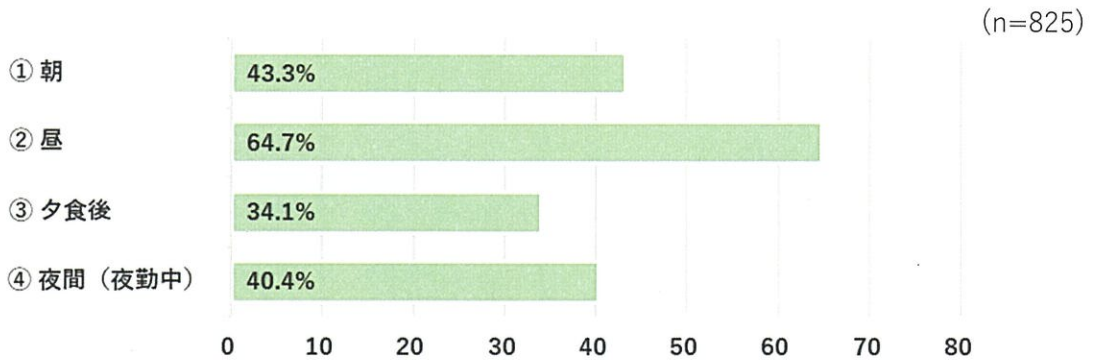
< 「その他」の主な内容 >

屋外
活動場所
洗面所
面談室
廊下
立入禁止の部屋



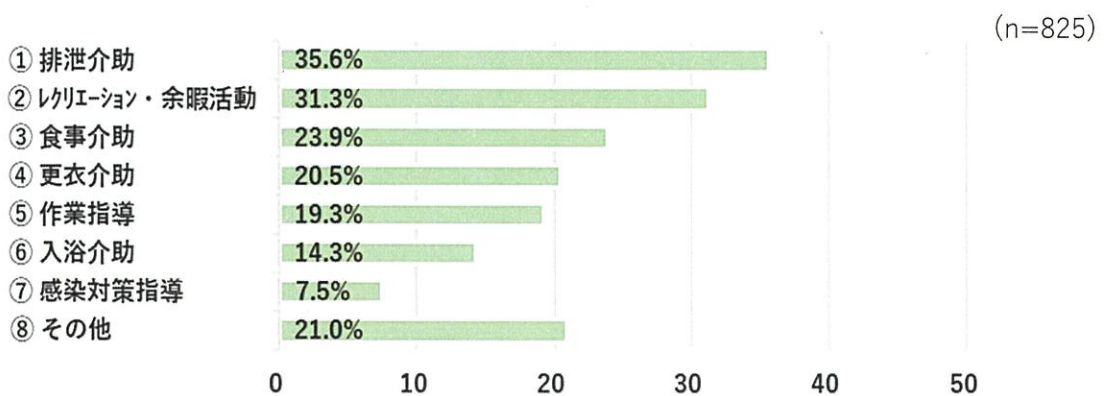
**問4(2)カ 虐待行為等を行いそうになった時間帯【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになった時間帯は、「② 昼」が64.7%で最も多く、次いで「① 朝」が43.3%、「④ 夜間（夜勤中）」が40.4%となっています。



**問4(2)キ 虐待行為等を行いそうになった場面【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになった場面は、「① 排泄介助」が35.6%で最も多く、次いで「② レクリエーション・余暇活動」が31.3%となっています。

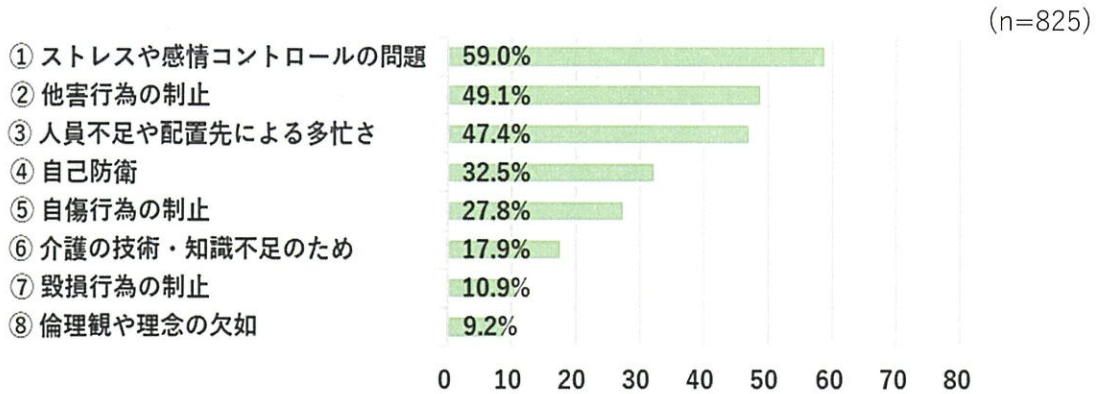


< 「その他」の主な内容 >

歯磨き介助
移動介助
他者介助中
トラブルの仲介
本人から暴力を受けた時
本人からセクハラを受けた時
他の利用者への暴力・暴言があった時
過剰にしつこくされて業務がままならなかった時
夜勤が続いた時
日常生活の中で

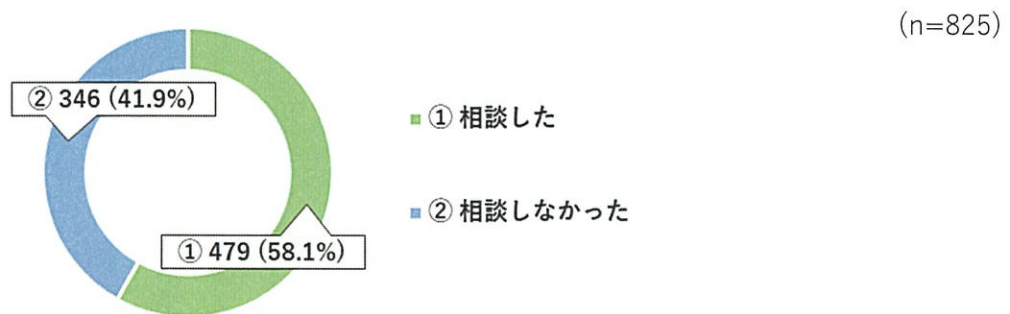
**問4(2)ク 虐待行為等を行いそうになったきっかけ・要因【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになったきっかけ・要因は、「① ストレスや感情コントロールの問題」が59.0%で最も多くなっています。



**問4(2)ケ 虐待行為等を行いそうになった際の相談の有無**

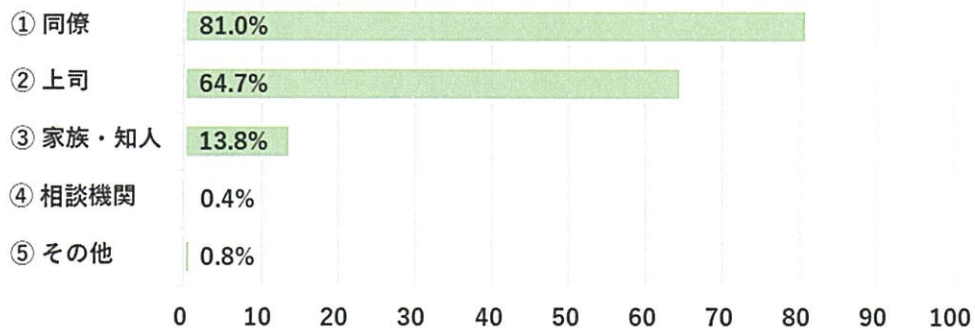
\* 虐待行為等を行いそうになった際の相談の有無は、「① 相談した」が58.1%となっており、「② 相談しなかった」は41.9%となっています。



**問4(2)コ 虐待行為等を行いそうになった際の相談先【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになった際の相談先は、「① 同僚」が81.0%で最も多く、次いで「② 上司」が64.7%、「③ 家族・知人」が13.8%となっています。

(n=825)



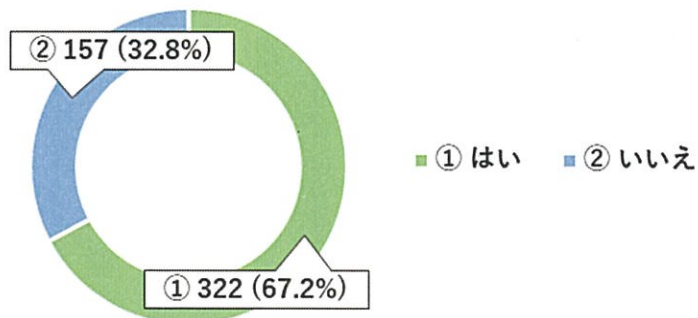
< 「その他」 の主な内容 >

医療機関

**問4(2)サ 虐待行為等を行いそうになった際の相談による改善状況**

\* 虐待行為等を行いそうになった際の相談による改善状況は、「① はい（改善した）」が67.2%となっており、「② いいえ（改善しなかった）」は32.8%となっています。

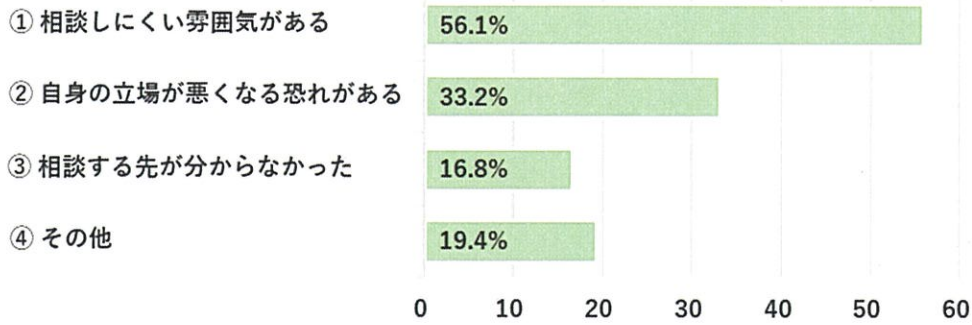
(n=479)



**問4(2)シ 虐待行為等を行いそうになった際に相談しなかった理由【複数回答あり】**

\* 虐待行為等を行いそうになった際に相談しなかった理由は、「① 相談しにくい雰囲気がある」が56.1%と最も多くなっています。

(n=346)



< 「その他」の主な内容 >

相談しても解決が期待できないため
相談することで業務が増えるため
自己解決できたため
その場で指導を受けたため
相手に謝罪したため
周囲にサポートしてもらえるため
相談できる相手がないため
相談の仕方が分からなかったため
多忙なため、日常的なことであるため
必要性を感じなかったため